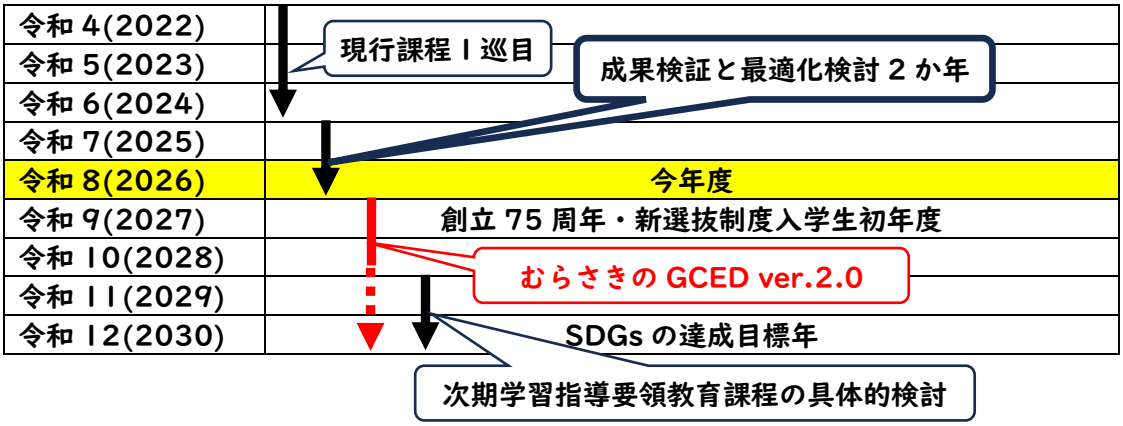
令和８年度　京都市立紫野高等学校経営方針

令和８年４月１日
京都市立紫野高等学校
校長　景山晋之介

令和８年度の位置づけ

令和７～８年度は、現行教育課程１巡目を終え、本校の創立 75 周年と京都府公立高等学校入学者選抜改革を令和９年度に控えた期間であることを踏まえ、昨年度の学校経営方針で、この２か年を「成果検証と最適化検討の２か年」と位置付けた。現行の教育目標「一歩踏み出す Global Citizen」を、本校**旧普通科英文系からユネスコスクール加盟及びアカデミア科創設の流れの集大成**として捉えなおし、本校の歩みを振り返るとともに、令和８年度中に公表予定の中教審答申も踏まえて本校の今後の方向性を見極め、今次学習指導要領後半の教育活動全体を、本校の過去と未来を繋ぐ**「むらさきの GCEDver.2.0」**として、よりよく教育目標を実現できるように最適化することを目指す。



重点方針（成果検証と最適化検討２年目）～より世界に開かれた学校へ～

令和４年度課程以降、教育活動全体を通して、**生徒が世界（地域、社会、海外等）に触れる機会を充実**させてきた。京都市立高等学校全体で、令和９年度入選革を機に、スクール・ミッション、スクール・ポリシーの見直しが予定されている。将来構想提案書の理念に照らして現行課程の成果を検証するとともに、令和８年度中に公表予定の中教審答申も踏まえながら、今次学習指導要領後半で、一層「京都から世界につながる学校」を実現する方向性を明確にする。

令和８年度 Key Phrase　**How do you change the world?**

１．創立 75 周年を契機とした現行教育課程の最適化

教務部主導で昨年度から検討してきた令和９年度教育課程申請について、今年度前半で結論を出す。意見交流はカリキュラム委員会や教科委員会、企画会議等の各委員会を中心に、合意形成は運営委員会で行う。

２．選抜改革を契機としたスクール・ミッション、スクール・ポリシーの改訂

令和４年度からの普通科オールアドバンスト化に伴い、これまで対象学科やクラスが限定されていた教育活動の門戸を全体に開いた影響等もあり、普通科・アカデミア科並置の意義を再検討することが望ましくなっている。令和６年度から始動した選抜改革プロジェクトチームをスクール・ミッション検討プロジェクトチームに発展的に改変、両学科の在り方を検討し、改訂スクール・ミッションを通して**ユネスコスクールとして、あるいは国際系高等学校としての存在意義**を改めて宣言する。

３．風通しのよい職場環境の実現と、小さな社会としての規範意識の醸成

教職員発案のプロジェクトチーム新設等も含め、実現したい紫野高等学校像を楽しく自由に議論できる空気を重視する。**「一歩踏み出す Global Citizen」という最上位目標に合致するアイデアであれば歓迎し、疑ってはいけない常識は皆無とする**。ただし、運営委員会や関係各所間での合意形成を重視する。

また、学校を小さな社会と捉え、紫野高という社会の“citizen”としての規範意識を、教職員が生徒との関わりの中で適切にメッセージを発することで醸成する。